

人
州
也

來
之
時

乃

五
廟

天
滿
宮



日本最初の落語家「露の五郎兵衛」の碑建立 ご賛同のお願い

謹啓 皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さてこの度(社)京都デザイン協会では上方の噺家露の五郎、落語生活五十周年記念として日本最初の落語家「露の五郎兵衛之碑」の建立に協力致すことになりました。今から四百年前、露の五郎兵衛が、京都北野天満宮境内で初めてお金をもらって噺をしたのが、日本の噺家のはじまりと伝えられています。その後露の五郎兵衛の名は一代かぎりでは絶えましたが、彼が始めた「噺」は世につれ人につれ、語り継がれ広まっていっていったのです。それから約二百年後開祖の名が絶えたのは寂しいと、落語界の総意で林家三平という人に名を継がせました。次の二代目露の五郎兵衛は、開祖の偉大さに遠慮して「兵衛」を取って露の五郎と名のりました。その初代露の五郎が亡くなった三十三回忌を機に、二代目春団治の弟子だった現露の五郎が二代目を襲名したといういきさつがあります。京都にはあらゆる芸能文化の発祥地であり、歌舞伎、能はもとより落語という庶民の「笑い」までもが京の都から日本中に広まったことに私たちは感銘を受けました。北野天満宮さんからも、そのようないきさつならせひにと、石碑建立のために境内入口の土地をご提供戴きました。そこで日本最初の落語家の碑建立に、広く京都の方々よりご賛同くださる方々を募りたく存じます。また御賛同の方々のお名前は碑の所に永遠に保存させて頂きます。つきましてはあなたさまに日本最初の落語家の碑建立にご賛同、ご協賛いただきたく、書面にて失礼とは存じますが、ここにお願ひ申し上げます。

敬具

【発起人名簿】順不同

- | | |
|------------------------|----------------|
| 京都造形芸術大学 | 学 長 岡本道夫 |
| 京都芸術短期大学 | 学 長 尾崎博正 |
| 嵯峨美術短期大学 | 学 長 上平 貢 |
| 成安造形短期大学 | 学 長 四方功一 |
| 大阪芸術大学 | 学 科 長 西脇友一 |
| 京都大学 | 名誉教授 森 毅 |
| 仏教大学 | 教授(語芸研究家) 関山和夫 |
| 京都番傘川柳会 | 会 長 戸井田慶太 |
| 京都川柳人連盟理事長・都大路川柳社主幹 | 院 長 奥山晴生 |
| 京都さわだ音楽院 | 故 長 澤田和也 |
| 能楽金剛流宗家 | 故 金剛 殿 |
| 能楽(大蔵流)狂言 | 茂山千五郎 |
| 千家十職塗師 | 中村宗哲 |
| 五代目陶芸家 | 小川文斎 |
| 都山流大師範 | 三好荒山 |
| SHIMUS (シムス) | 堀木エリ子 |
| 奈良東大寺 | 紙ディレクター |
| 高台寺 | 上野道善 |
| 北野天満宮 | 寺前浄因 |
| 醍醐寺 | 宮 司 梶 季嗣 |
| 太融寺 | 座 主 麻生文雄 |
| 吉忠(株) | 住 職 麻生弘道 |
| イタリヤード(株) | 代表取締役社長 吉田忠嗣 |
| 関西電力(株) 京都支店 | 代表取締役社長 北村陽次郎 |
| 京朋(株) | 支店長 白水珍郎 |
| 月桂冠(株) | 代表取締役社長 室木道昭 |
| (株)ワコール | 代表取締役社長 大倉治彦 |
| 朝日新聞立花販売(株) | 故 会 長 塚本幸一 |
| 宇野印刷(株) | 代表取締役社長 伊藤俊雄 |
| (株)京都放送 | 代表取締役社長 宇野文博 |
| 柴田石材(株) | 代表取締役社長 古家野泰也 |
| ロンシャン(株) | 代表取締役社長 柴田益夫 |
| 西陣織工業組合 | 代表取締役社長 脇田周輔 |
| 京都織物卸商業組合 | 理事長 渡邊隆夫 |
| 京都誂友禪工業協同組合 | 理事長 山脇浩司 |
| (社)日本園家協会 | 理事長 大西靖郎 |
| 京都服飾デザイン協会 | 理事長 関谷泰三 |
| (社)日本デザイン文化協会京都支部 | 会 長 山口晴司 |
| 京都インテリア産業協会 | 理事長 石田絹江 |
| (協)京都クラフトセンター | 支部長 平岡隆一 |
| 京都建築設計監理協会 | 会 長 橋本奈良二 |
| (社)日本グラフィックデザイナー協会京都地区 | 理事長 本郷大田子 |
| (社)京都国際工芸センター | 支部長 小菅八郎 |
| (社)日本建築家協会近畿支部京都地域会 | 代表取締役社長 三輪泰司 |
| (協)総合デザイナー協会 | 会 長 大向 務 |
| (協)大阪デザインオフィスユニオン | 理事長 川島春雄 |
| 京都物産出品協会 | 理事長 寺嶋繁久 |
| (社)京都府物産協会 | 理事長 佐治敏三 |
| ミーマリスト | 理事長 越田英喜 |
| 成安造形短期大学 | 会 長 津田佐兵衛 |
| 大阪芸術大学 | 会 長 角田潤治 |
| バルアート(株) | 大木ミヤ子 |
| 京都芸術短期大学 | 代表取締役社長 嶋 高宏 |
| 京都芸術短期大学 | 教 授 藤田頼伯 |
| (株)GK京都 | 教 授 田積司朗 |
| カナメ・デザインスタジオ | 教 授 久谷政樹 |
| (株)DSコスモ | 教 授 奈良磐雄 |
| (株)くろちく | 代表取締役社長 尾崎 要 |
| ササナミ・デザイン・アトリエ | 代表取締役社長 熊谷 實 |
| (株)南建築事務所 | 代表取締役社長 黒竹節人 |
| 嵯峨美術短期大学 | 代表取締役社長 佐々浪昌夫 |
| 嵯峨美術短期大学 | 取締役部長 清水忠義 |
| (有)橋本広告事務所 | 教 授 鯛天成雄 |
| 成安造形短期大学 | 教 授 谷口啓司 |
| 岐阜女子大学 | 代 表 橋本繁美 |
| 京都市立芸術大学 | 企画室長 大和文昭 |
| 京都近鉄百貨店 モードサロン | 助教授 門脇英純 |
| | 教授 道家駿太郎 |
| | 非常勤講師 古川加津夫 |
| | 松原醇子 |

社団法人京都デザイン協会
理事長 本郷大田子
発起人 露の五郎
建立人 協賛会

●石碑建立賛同協賛金 一口 二千元

誠に恐れ入りますが、承諾書にご記入の上、同封の封書にてご返送ください。FAXにてご返送いただく場合はFAX(075)・525・0294までお願い致します。協賛金(一口2千円)は同封、または左記口座にお振り込み戴きましたら幸いです。

◆お振込先／京都信用金庫 本店 普通預金 0485975
名義／社団法人京都デザイン協会 理事長 本郷大田子 ほんこうたでんし

ご賛同承諾書

(同封/振込)

協賛金

口 円

ご住所

ご芳名

ご連絡先

御肩書

昔、延宝・天和の頃（一六八一〜八四）

露の五郎兵衛という人が、此所、北野天満宮をはじめ、祇園真葛が原、四条河原、百万遍、その他諸所の開帳場に場所を占め、自作の笑いはなしを口演、都の名物男と言われ、日本の落語家第一号となりました。

元禄十六年（一七〇三）六十一歳で亡くなるまで、都の人気を一身に集め、数部の咄本を著わし、遺した咄三百数十話、直接、間接に、現行落語の原話になっているものが沢山あります。

ゆかりの名前をいただいております私、落語生活五十年を期に、開祖の碑建立を願し。北野天満宮様の御好意と、社団法人京都デザイン協会・柴田石材様はじめ四方諸兄弟の御賛同、御協力によって完成致しました。

日本最初の落語家、露の五郎兵衛師の偉業をたたえ、遺徳に感謝し、ここに顕彰するものであります。

建立人 二代目 露の五郎

平成十一年三月吉日

会 落 語 記 念 五 郎 露

ごあいさつ

本日は、かく厭々しき御来場、ありがたく厚く御礼申しあげます。
念願の露の五郎兵衛碑建立、その除幕を致しました、心嬉しい落語会。
今日に(京に)因みました演目を並べてみました。
お時間まで、ごゆるりとお楽しみ下さい。

平成11年4月10日

露の 五郎



(一) 落語 平林

露の 団 六

京の笑いばなしと申しますと、何と申しまして、
京極の六角、誓願寺第五十五世法主、策伝和尚、後
隠居して安楽庵策伝、元和年間(一六一五〜一六二
三)醒睡笑全八巻をあらわす。落中きつての笑話の
名手、ユーモリスト。その醒睡笑の中に原話が見ら
れる。古典中の古典「平林」が、開口一番ではじま
ります。

(二) 落語 池田の猪買い

露の 団四郎

落語家のはじまり、第一号、露の五郎兵衛は、自ら
しゃべっただけでなく、生前没後に、数種の咄本が
出ておりまして、これはまあ、作品集とでも申しま
しょうか、三百数十話が残されています。
その中の一席
三百年以上、語りつがれて、今だに色あせぬ、正に
名作でしょう。

(三) 落語 たけのこ

露の 五郎

京の春、山城の名物は、朝堀りのたけのこ、旬のも
の、てなことを、言わなくなり、世の中、季節感が、
だんだんなくなりつつある中に、せめて、はなしの
中でなりと。
小品ながら、演目、演者、正に旬の味。

―お中入り―

(四) 舞踊 三十石

綾川 文代

京都、大阪を、水でむすんだ淀川を、上り下りの三
十石、伏見の浜から、天満の浜へ。
上方噺の世界を、大和楽に、たくみに取り込んだ、
面白い作品です。

(五) 芝居噺 加賀見山

露の 五郎

トリはタップリ、演者十八番の芝居噺。
桜満開の清水寺でくりひろげられる歌舞伎「加賀見
山旧錦絵」の序幕。
一幕スツカリ、これこそ、見る噺の決定版。



人艸や

来た野の

露乃

五郎兵衛

山東京伝「近世奇跡考」より

お囃子 林家 和 女

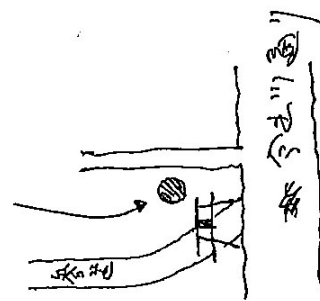
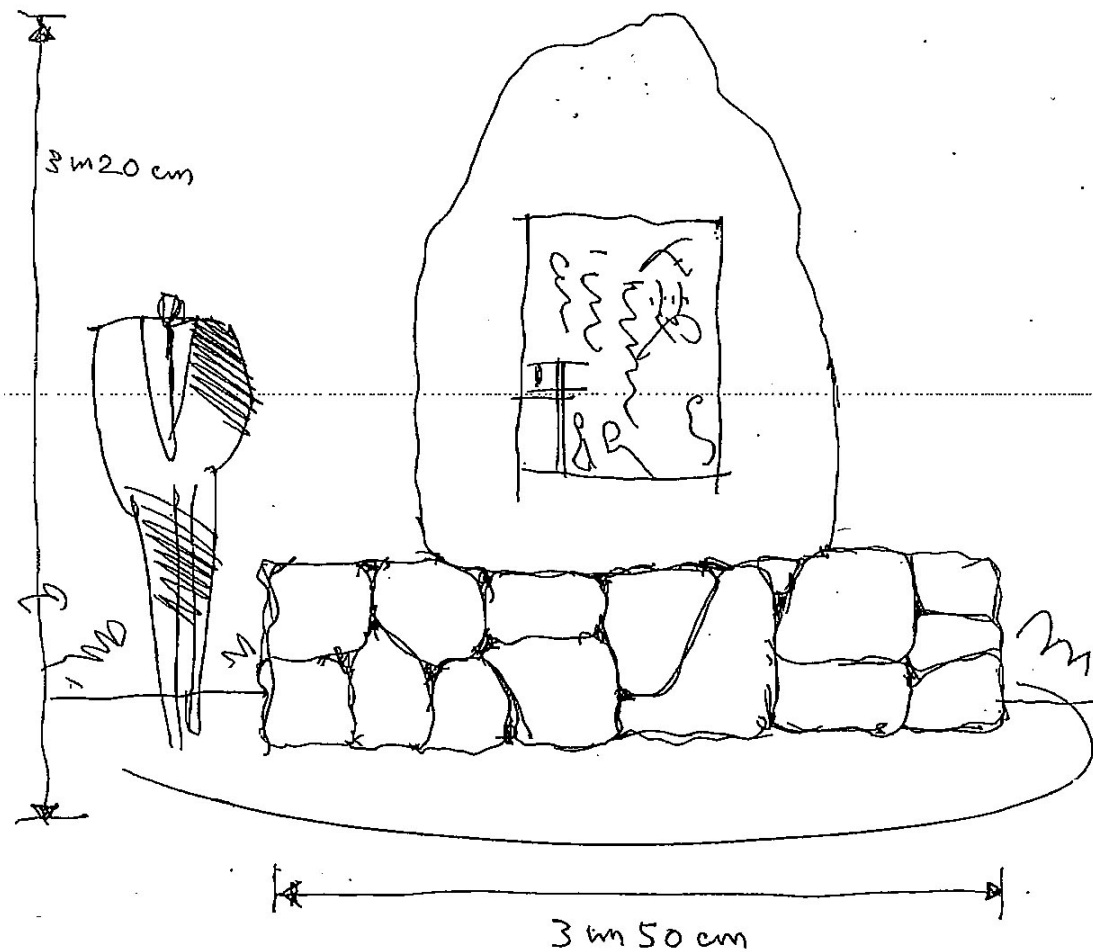
演目解説・小林恵

やむをえぬ都合による演目変更の事はおゆるし下さい。

露伴五郎兵衛の碑
北野天満宮境内に建立



平成十一年四月十日



上方噺のはなし

文 露の五郎 [落語家]

野天と座敷ではじまった

時は元禄(一六八八—一七〇四)、場所は京都の北野天満宮。その鳥居をくぐった所に広床几(ひろしやうぎ)を置き、頭巾をかぶった入道姿の男が机を前にして座っています。その前には幅のせまい床几が二、三脚、若男女がたむろして、頃あい良しと見た件の入道、かたわらの湯呑を取りあげて、おもむろに口をしめし――

さて、さる時、さる所。熊鷹、猪を見つけて、これを撃とうとしたのが、この熊鷹、いささか慌てたものとみえて弾を忘れ、空銃砲をはなした。

ところが、猪がまた、うろたえもの、いや、もの、ではのうて、うろたえ、けもの、であつたとみえて、首にびつくりして氣を失うた。と、そこへやって来た猪鬣。熊鷹、これさいわいと売ろうとしたが、この猪鬣、何と、この猪には鉄砲の傷もない。いつ死んだも知れぬ。古うはないか。

熊鷹「たつた今撃ちました」
「いや、古そうな」と、猪鬣引き返すところへ、かの猪むくむくと起きあがり、山を

さしてトコトコ、熊鷹指として、「あれ、あの新しさをころうじ」

一同、やんや、やんやとにぎやかに笑ひさざめいて……
――とまあ、こんなぐあいに、落語家の第一号が大衆の前に姿を現したのであります。日本の落語家の濫觴(らんしよう)「らんしよう」。その人の名は、露の五郎兵衛。

出生や経歴は明らかではありません。活躍の時期についてもさきまでですが、伝説によりますと、寛永二十年(一六四三)の生まれ。延宝、天和(一六七三—一七八四)にかけてが三十歳代。浪人者で、或る時、人の為に入を手にかけ、後に入道して露休(ろきゅう)と名乗ったので、元禄十六年(一七〇三)秋、六十一歳で亡くなったんですが、京都の人寄り場所をわけめぐり、祇園、真葛ヶ原、北野天満宮、四條河原、百万遍、その他諸方の開張場に、五郎兵衛の姿、かならずあり！と言われて、人気を一身に集めたのであります。残念ながら、弟子というような者が無く、没後、名は絶えてしまいました。



山東京伝「近世奇談考」より

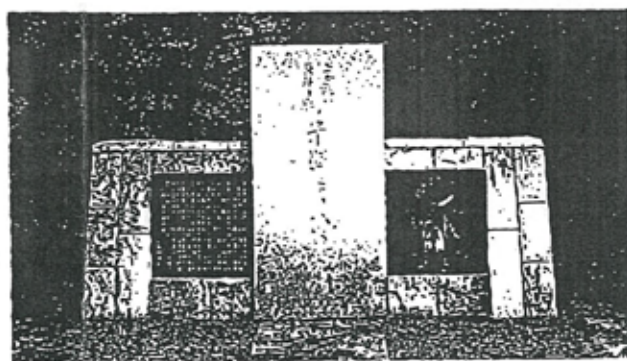
当時はまだ落語という言葉は無くて、露の五郎兵衛の「軽口ばなし」と言われ、野天で演じるやり方を「辻ばなし」と申しました。五郎兵衛さんは、その元祖ということでおま

す。
露の五郎兵衛の晩年に当たる元禄の頃、江戸で鹿野武左衛門という人が、「座敷仕置ばなし」という事をはじめました。いわば江戸落語の祖ということになりますのやが、実はこの人も、摂津の国難波の生まれと申しますよつて、やっぱり噺は上方から、ということになりますのやろか……。元禄十二年八月、五十一歳で亡くなったのであります。

彦八の名は全国を巡る

京に露の五郎兵衛、江戸に鹿野武左衛門。その頃、大阪では、米沢彦八がその名をうたわれておりました。

歳は五郎兵衛さんより二十歳ぐら若い若かつ



生國魂神社の境内にある米沢彦八の顕彰碑

たらしいのですけど、生、没年がはっきりしませんが、そこへもって来て、四代まで襲名した人があるもんで、さかいに、初代、二代、三代、四代がゴッチャになってしまつて、えらい、ややこしい事になってますのや。
けど、まあ、その所はいろいろな説をならみ合わせて、貞享から享保のはじめ(一六八四—一七二〇年頃)にかけての人らしいのであります。彦八さんも、露の五郎兵衛さんと同じように、はじめは新町の西口で「辻ばなし」をしていらしたので、宝永、正徳から享保、すなわち、晩年は生玉社境内の掛小屋ではなしをして、生玉の名物になったのであります。

この米沢彦八を大阪落語の祖として、その顕彰碑が、生玉社、現在の生國魂神社の境内に建てられたのであります。平成二年(一九九〇)のこと、これは五代、六代の笑福亭松鶴の念願でしたが、はたさぬままに逝き、その遺志をついだ笑福亭一門が中心になって出来あがつたのであります。

鹿野武左衛門はともかく、露の五郎兵衛、米沢彦八の作と言われる噺で、今日も演じられていて、落語は数々おますし、両者の作が原話と見られるものは枚挙にいとまがありません。

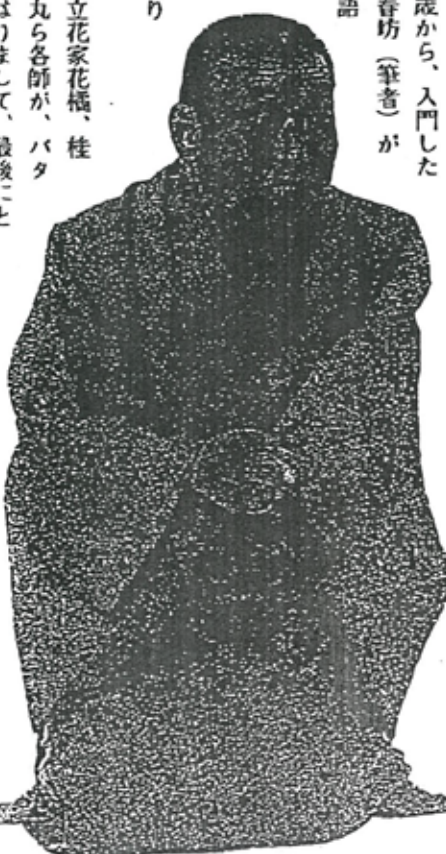
五郎兵衛が「軽口ばなし」、武左衛門が「座敷仕置ばなし」と呼ばれたのに対して、彦八のはなしは、その名をかぶせて「彦八ばなし」と呼ばれまして、その笑いの種は、弟子たちによって諸国にばらまかれたよう、地方における笑話の口承者や、はなしのタイ

ルに、彦八、彦七、彦市等が多いのは、その名残りやという説もあつた。
東京と上方の落語は、それぞれ発生の時点で、上方の辻ばなし、江戸の座敷ばなし、というネーミングが示しているように、道行く人の足を止めるためには、派手で陽気な演出が必要で、つたでしようし、座敷に落ちついたお客を堪能させるには、じっくり聞かせる工夫が大切でつたのでしよう。

それは、そつくり今日につながつて、上方のこつぱい噺、江戸の人情噺と言われるのも、もつともなわけでおます。
花も嵐も踏み越えて……

以来三百余年、最盛期、黄金時代と言われた明治の落語界。大正を経て、漫才と対決を余儀なくされた昭和の始め。戦争をはさんで昭和二十二年、上方で戦後最初の奇席、我橋松竹がオーブンした時には、二十人そこそこの落語家、それも最長老の林家染丸、慶応三年生まれの八十歳から、入門したての最年少、桂春坊(筆者)が十五歳、少年落語家と呼ばれた、子供の笑福亭小つるまで入れて下さかい、心細いかぎり

おました。
そのうちに、立花家花橋、桂米団治、林家染丸ら各師が、バタバタと逝かはりまして、最後にとどめをさすように、私の師匠、二代目桂春坊



そのうちに、立花家花橋、桂米団治、林家染丸ら各師が、バタバタと逝かはりまして、最後にとどめをさすように、私の師匠、二代目桂春坊



日本初の落語紹介
北野天満宮境内に
露の五郎兵衛記念碑
北野天満宮(京都市上
京区)で十日、江戸初期
に同境内で日本初の落語
をしたと伝わる露の五郎
兵衛にちなんだ記念碑の
除幕式が営まれた。写真
は、設立を呼びかけた上
方落語家、露の五郎さん

除幕式で、露の五郎さ
んは「たくさんの方の寄
付で立派な碑ができた。
恩は返したい。現代
に明るい話題を提供で
き、こんなにうれしいこ
とはない」とあいさつ、
碑のわきに桜の苗木を植
樹した。近くの上七軒歌
舞練場で露の五郎一門に

会や関係者が出席、鏡
割りや落語、大道芸など
で境内はにぎわった。
記念碑は、二年前に落
語家五十年を迎えた露の
五郎さんが発案。京都デ
ザイン協会(本郷大田子
会長)が広く呼びかけて、
ゆかりの地である一の鳥
居近くに建立した。高さ
約三メートルの自然石に、
後期の山東京伝「近世奇
跡考」にある露の五郎兵
衛のさし絵を彫った御影
石をはめ込んでいる。

よる落語会もあり、祝
いムードは終日続いた。



▽江戸時代、
京都の北野天満宮
などで活躍し
た日本初の落語
家、露の五郎兵
衛を記念する碑の
除幕式が、十日、
同天満宮で

完成し、同日、同天満宮で
除幕式があった。
▽五郎兵衛の流れをくむ
露の五郎さん(せ)を中心
に、建碑計画が持ち上がり、
京阪神の落語ファン約千人
が寄付金を寄せた。碑面には
様子が彫られている。

▽華やかな元禄の
時代に比べ、今は不
況の真っただ中。い
つもは軽妙な語り口
の露の五郎さんは、
「不況なのに大勢の
ファンが寄付してく
れた。このご恩は返
で返します」としん
みりと話していた。

上方落語の開祖

五郎兵衛の碑 京に建立

上方落語の開祖の一人とい
われる露の五郎兵衛の碑が、
ゆかりの京都市上京区・北野
天満宮の一の鳥居横にでき
る。五郎兵衛にちなんだ名前
を継ぐ露の五郎らが建立をす
めており、十日午後一時半
から同所で除幕式を、午後四
時半からは近くの上七軒歌舞
練場で、記念落語会をする。

同じころ、大阪の生国魂神
社境内などで米沢彦八が、
同様な趣向の話を始め、お
り、彦八の碑は、すでに笑
福亭一門らの手で建立され
ている。

二年間、京都で開かれた文
化講演会で、五郎がこのこと
を話したところ、関西在住の
デザイナーや企業が会員の京
都デザイナー協会が、賛助金集
めなどで協力してくれること
になった。天満宮も建立に賛
同して、完成した。

碑は高さ三・二メートル。床几
に腰掛けた客を相手に語って
いる五郎兵衛の姿が刻み込ま
れている。

記念落語会は五郎と、弟子
の団六、団四郎らが出て、五
郎兵衛の作といわれる「池田
の猪買い」など五席を演じ
る。二千五百円。

10日、除幕式と落語会

落語発祥の地 北野天満宮

1994/3/26

上方の祖の 記念碑を建立 10日に除幕式

露の五郎兵衛さん顕彰

落語発祥の地とされる上
京区の北野天満宮に、上方
落語の祖とたたえられる落

語家「露の五郎兵衛」を顕
彰する記念碑が建立され
た。十日、除幕式を行い、
設立を呼び掛けた露の五郎
さん(六七)西宮市へらが出
席して完成を祝う。

期北野天満宮で日本初の
落語を演じたとされ、同天
満宮の記録にも落語家とし
ての五郎兵衛の名が残っ
ているという。

偉大な祖の名を継いだ五
郎兵衛は、落語家歴五十年
を参考し、碑のデザインも
決めた。

記念碑は一の鳥居をくぐ
つてすぐのところに建てら
れ、五郎兵衛が初の落語を
演じたとされる正に同じ場
所。深い緑色をした自然石
で、高さ三・二メートル、幅三・
五メートル。中央部に黒の御影石
をはめ込んだ。

除幕式は十日午後一時半
から行い、鏡開きや五郎さ
んの弟子が五郎兵衛の落語



日本初の落語家をたたえる記念碑を見上げる
露の五郎さん

を再現する。午後四時から
は同区の上七軒歌舞練場で
五郎さんの独演会(有料)
もある。

1997.12.4 織研新報

告知板

第6回文化ナイトフォーラム「露の五郎・話芸を愛しむタベ」京都デザイン協会（本郷大田子理事長）は、第6回文化ナイトフォーラム「露の五郎・話芸を愛しむタベ」を、5日午後6時から京都市の上七軒歌舞練場で開く。参加費2000円。同協会は「デザインを通じて社会に貢献する」をモットーに毎年ナイトフォーラムを開催している。今年は「笑いをデザインする」をテーマに開く。

1997.12.6 京都新聞 朝刊

発祥の地に上方落語の祖

露の五郎兵衛碑建立へ

「師匠に礼」五郎さん計画

北野天満宮で地鎮祭

落語家露の五郎さん（左）西宮市で落語発祥の地とされる上京区の北野天満宮に、上方落語の祖とされる「露の五郎兵衛」の記念碑の建立を計画、五日に行われた地鎮祭に参列した。

露のさんは「露の名で半世紀落語をさせてもらった。名を頂いた五郎兵衛師匠に、お礼ができれば」と話している。露の五郎兵衛は、江戸時代初期の京都の人。同天満宮で日本初の落語を演じたとされる。江戸後期の戯作者山東京伝の「近世奇蹟考」の挿絵に、同宮鳥居近くで民衆を前に落語を披露する五郎兵衛が描かれ、同天満宮にもその記録が残っているという。



露の五郎兵衛が初めて落語をした地で、記念碑建立の地鎮祭に参列する露の五郎さん

挿絵を元にデザインした」といい、京都デザイン協会の協力を得て実現させる。

この日、五郎兵衛が初めて落語をした一の鳥居近くで、五郎さんや同協会理事ら十一人が参列し、神事が営まれた。その後、上七軒歌舞練場（同区）で露の五郎さんが一席披露し、碑の建立に協力を呼びかけた。

同協会では一口二千万で賛助者を募り、建設資金が集まり次第、建立にとりかかる。詳しくは同協会事務局 ☎（541）0239 まで。

「露」の名を受け継いだ五郎さんは芸歴五十周年を記念し、五郎兵衛の碑を建てようとして計画した。「記念碑は、山東京伝の本の









